

# 「スーパーボランティア」



Hinako

(Drawn by Hinako FUJIMURA)

2018年8月、山口県に住んでいる2歳の男の子が、突然いなくなった。

男の子は、おじいさんと一緒に家の近くの海に出かけた。しかし男の子は、海に行く途中で家に帰ると言い出した。そして、一人で家に戻っているときに、いなくなってしまった。

家族や150人以上の警察がいろいろな場所を探したが、男の子は見つからなかった。

男の子がいなくなって3日後の朝、一人のボランティアが捜索に参加した。その人は、尾畠春男さん。78歳。尾畠さんは、朝早くから一人で男の子を探し始めた。そして30分後、なんと尾畠さんは男の子を見つけたのだ。

警察や家族は、男の子がいなくなってからずっと、家から海の方を探していた。しかし尾畠さんは、海とは反対の、山の方を探した。そして、男の子を見つけた。

「子どもは、どんどん山に登りたがる。だから、山を探した」

と、尾畠さんは言った。

男の子がいなくなってから3日も経っていたのに、男の子は無事だった。奇跡だった。

尾畠さんは、新聞で男の子のニュースを読んで、大分県の自分の家から車で駆けつけた。実は尾畠さんは、東日本大震災の時も、熊本地震の時も、西日本豪雨の時も、ボランティアに参加した。赤いタオルを頭に巻いたスーパーボランティアだ。65歳まで大分県の別府市で魚屋をしていたが、65歳の誕生日にすっぱり仕事をやめた。そして、これまでお世話になった人々に恩返しをしようと思って、

ボランティア活動を始めた。尾畠さんがボランティアをするときは、食べるもの、寝るところも、すべて自分で準備する。小さな自分の車に5日分の食べ物を積んでボランティアが必要な場所に駆けつける。それが、尾畠さんのスタイルだ。

尾畠さんが男の子を見つけた日、男の子の家族が尾畠さんを家に招待して、食事をごちそうしようとした。尾畠さんが山で男の子を探しているときに服が汚れたので、お風呂にも入ってもらいたかった。しかし尾畠さんは、

「私はボランティアだから、そういうものは全部ありません」

と言って、食事もお風呂に入ることも断った。そして、自分で持ってきた冷たいご飯を食べて、小さな車に乗って帰って行った。

(874 字)

(2020.5 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.